

研修を組織の原動力とするための理論と実践

竹中 喜一（近畿大学 IR・教育支援センター 准教授）

講師略歴

専門は高等教育論および教育工学。特に大学教職員の学習と研修転移に関心を寄せている。民間企業での SE 等の業務、関西大学での事務職員および愛媛大学特任助教、講師、准教授としての FD、SD、教学 IR 等の業務を経て、2023 年より現職。並行して 2023 年より山梨県立大学特任准教授として教学マネジメントアドバイザーも務める。関西大学在職中に名古屋大学大学院、大阪大学大学院を修了。博士（人間科学）。主な著書に『大学 SD 講座4 大学職員の能力開発』（共編著）、『大学の学習支援 Q&A』（分担執筆）などがある。

プログラム概要

研修は、業務を離れて行う能力開発の主要な方法で、大学職員を対象とするものは SD (Staff Development) と呼ばれています。SD は大学設置基準で大学に実施が義務づけられています。義務を果たすということそのものが目的で、本来の目的とすべきはずの能力開発に至っていない、もしくは至っているかわからないと考える人や組織は少なくないのではないのでしょうか。

本プログラムには、そういった SD の課題を解決するヒントを提示するねらいがあります。プログラムではまず、SD を含む研修評価の理論であるカークパトリックのモデルについて紹介し、モデルに対応した SD の評価方法を提示します。同モデルをもとに、SD が受講者の行動変容や受講者が所属する組織の業績向上（業務改善）につながるためには、誰が何をすべきについても考えていきます。参加者のみなさまがもつ実践知の共有も交えながら、SD を組織の原動力とするための理論と実践について学ぶ機会とできればと考えています。

準備物・事前課題

竹中喜一・中井俊樹編著(2021)『大学 SD 講座 4 大学職員の能力開発』の内容（特に 10 章、12 章）、ならびに事前にお知らせする動画教材の内容を踏まえて行いますので、受講前にご確認ください。

主な受講対象者

- ・研修を企画・運営する SD 担当部署の職員
- ・部下を研修に送り出す立場にある職員
- ・組織の発展に研修を活かしたいと考えている教職員

到達目標

1. 研修評価の枠組みを説明することができる。
2. 研修を行動変容や業務改善につなげるための方法を説明することができる。
3. 所属組織の研修を行動変容や業務改善につなげるにあたっての課題を抽出し、解決策を検討することができる。